石川県鍼灸師会報 ’14.10 第1号

いしかわけんしんきゅうしかいほう　公益社団法人石川県鍼灸師会

写真：平成２６年度　第１０回七尾湾岸トライアスロン大会

〈 目次 〉　　頁（ページ）

1. 会長挨拶 ・・・ 2
2. 平成２６年度通常総会 ・・・ 3
3. トライアスロン大会ボランティア ・・・ 4
4. 県民公開講座 ・・・ 5.6
5. 女性のためのお灸サロン ・・・ 7
6. リスクマネジメント講座 ・・・ 7.～9
7. ゲートキーパー事業研修会 ・・・ 9
8. 青年部からちょっとイイはなし ・・・ １０
9. 図書紹介 ・・・ 10
10. あとがき ・・・ 11

1. 会長挨拶

公益社団法人石川県鍼灸師会
会長　定池　寿

平成２６年４月１日付けで公益法人石川県鍼灸師会に移行し、半年が過ぎました。平成２５年８月２１日に石川県に公益申請を行いました。申請後は、石川県との折衝が続き、平成２６年３月１９日付けで石川県より確認書が届き、平成２６年４月１日付けで公益法人に移行する手続きを法務局で行い、石川県に報告いたしました。

移行にあたり、まず事務所の変更を行いました。事務所の変更は、定款の改正が必要でしたので、総会で会員の皆様に定款改正を承認いただき、石川県に報告し、法務局に申請しました。その後、公益法人の定款案を会員の皆様にお示しし、臨時総会において承認されてから、石川県との折衝を行い、細かい修正を行い理事会で承認されたものを、石川県に新定款と申請書を提出いたしました。その後、上野財務部長を中心に、石川県との細かな打ち合わせがあり、ようやく公益法人審議委員会にかけられ、晴れて公益法人に移行することが出来ました。石川県、法務局と何度も訪れたことは、大変良い経験ができたと思っております。

今後は、公益法人としての師会活動を会員の皆様の協力のもと、行ってまいります。

今年度は、学術部として、リスクマネジメント専門領域研修会を中心に行っています。上半期は、日本赤十字社の救急員認定講習会を主に行い、下半期は、鍼灸に必要なリスクマネジメント研修会になります。事前登録者が少ないと懸念しております。公益社団法人日本鍼灸師会の事業ですので、まだ登録をされていない会員は、もう一度検討いただき石川県鍼灸師会会員の皆様が、是非ともリスクマネジメント専門領域の修了者になっていただきたく思います。

普及部の活動としては、七尾湾岸トライアスロンのボランティア治療と県民公開講座が無事終了し、特に県民公開講座は、昨年よりさらに多くの県民の皆様が参加してくださいました。これも、会員皆様のご協力の賜物と感じております。来年度以降も続けてゆきますので、ご力お願いいたします。

下半期は、鍼灸の良さを県民皆様にお伝えすることが目的の事業の公民館活動、親子スキンタッチ教室などを計画しております。

後は、地域包括医療システムに対応すべく、行政・医師会・地域包括支援センター等への対応が大切だと考えております。２７年度に向けて、対応を強化して行きます。

公益法人として、色々な公益事業を行ってゆきますので、会員皆様のご協力をお願いいたします。

2. 平成 26 年度通常総会

平成 26 年度通常総会　報告

日時　平成 26 年 4 月 29 日（火祝）
　　13 時～14 時 20 分
場所　石川県地場産業振興センター新館 5 階
（第 13 研修室）
＜内訳＞
会　員　数　：60 名
出　席　者　：26 名
委任状出席者：24 名
合　計　　：50 名

議長　　：上野晃一
議事録作成人：中村智彦（総務部長）
議事録署名人：金谷由久、山下竜司

定款 18 条に基づき総会は成立する。

総合次第と進行状況概要
①開会の辞
②会長挨拶、および公益社団法人石川県鍼灸師会の正式な発足を報告
③第 1 号議案（各部からの事業報告）
　広報普及部　平成 25 年度事業報告
　学術部　　平成 25 年度事業報告
　保険部　　平成 25 年度事業報告
　組織部　　平成 25 年度事業報告
　青年部　　平成 25 年度事業報告
　財務部　　平成 25 年度事業報告
　総務部　　平成 25 年度事業報告
④第 2 号議案（決算報告）
　財務部　　平成 25 年度決算報告
　監事　　会計監査報告
⑤第 1、第 2 号議案に対する質疑応答
　組織部に対する質疑応答
⑥第 3 号議案（その他の議案）
1. 専門領域研修会、鍼灸臨床研修会、学生会員の募集について説明
2. 総会運営規定、役員選任規定、会員規定、入会退会規定、会費運用規定、役員報酬規定, 役員報酬及び弁済規定、ボランティア規定について説明
3. 保険（労災）について説明
⑦第 3 号議案に対する質問、意見
　規定に対する質疑応答
　広報普及部に対する質疑応答
　カルテ、保険に関する質疑応答
　松田会員よりご尊父の弔問への謝辞
　光井会員より国際交流活動に関する案内
⑧第 1～第 3 議案、総会出席者の賛成多数により承認
⑨閉会の辞

３．第 10 回七尾湾岸トライアスロン大会

平成26年度第10回七尾湾岸トライアスロン大会ボランティア

中村　智彦

平成２６年７月２７日（日）に毎年恒例となっております七尾湾岸トライアスロン大会にて鍼灸ボランティアを行ってきました。今回は天気が雨のち曇りとの予報でしたが、何とか雨も降らずに助かりました。

会員は１３名参加しており、鍼灸治療を受けた選手は４３名でした。８時半を過ぎた辺りからトップグループがゴールし、そこから慌しくなりました。ベッドは６台ありましたが、ピーク時はビニールシートの上でも治療を行いました。受付に１名、他１２名が治療にあたりました。

治療に当たってはほとんどの選手が下腿の張り、痙攣を訴えておりました。また腰部から背筋の痛み、頸部から肩部の痛みを訴える選手も少なくありませんでした。アイシングを行い、患部を直接もしくは経筋を用いた治療を行う先生が多かったのではないでしょうか。

今回のボランティアに限らず、会員参加の普及においては先生方のいろいろな治療法や問診、患者さんとの会話など、普段の臨床に繋がる経験ができます。分からないところや、不明な点などを先生方に聞いて教わったり、もしくは直接指導して頂けることもあり勉強になります。私は毎回参加しておりますが、その都度非常に良い経験をさせて頂いております。来年度もより多くの会員の先生方の多数の参加をもってボランティアが行えることを楽しみにしております。

４．県民公開講座

県民公開講座漢方の養生を受講して

Natural aging

川本力雄

今の世の中、オレオレ詐欺や人が人を危める等、殺伐として心を傷めることが多く、あまり物事に動じない小生も些か閉口しています。そんな折に健康診断の際に告げられる血圧や血液検査の正常であるとの値が、突然に変更されたことは記憶に新しく、病もちの私は毎月定期検診を受けているがこれにはビックリ。一体、異常とされていた値は何だったんだァ…と。同病の志も、いささか想いは複雑な事でしょう。

さて、先日、8 月 31 日（日）、北陸大学薬学部教授劉園英先生の「漢方の養生」を拝聴した。流暢な日本語で語りかける先生のご講演は大変にわかり易く楽しく拝聴させていただいた。

薬膳料理のお話であったがSpiritualな表現も多く、県民の方々はお解りになられたでしょうか。

私の理解では薬膳は（医食同源）、古来より中国より伝えられ、飲食の調和が不老長寿と病気治療の方法として、文献（黄帝内経・素問）にも「穀肉果野菜、食養之に尽きる」と記されています。

だからと云って生薬が必ず必要だとか、同味だとか、近年ホテル等で大変な高級料理として取り上げたりしているが、近所のスーパーで簡単に手に入る食材を使った料理でも充分、立派な薬膳であり健康になるということが食養生の基本でしょう。テレビや雑誌で見る現代料理のレシピは見た目も鮮やかで、盛り付けも華やかであるが、果して栄養のバランスは？

天然の食材の陰と陽、体質などをベースにしている薬膳は何んと奥が深いのだろう。健康長寿のレシピをもっとお聞きしたかったが時間がなくお話はこれ迄、残念。

一方、鍼灸もまた赤血球の数や中性脂肪の値など、診断や治療の基準にはさほど重要でなく、あくまで陰陽や患者様の脈や体質のバランスを診て未病治の施術に対応する。これこそ躍進？おっと、これこそ自然のなせる熟成躍進一体と云えるでしょう。

お酒が好きで凝りない私は、トンソク（豚足）は中性であり、陰を補う作用があり、ゆえに「陽」のお酒とは相性がよく、モヤシやナス等の「陰」の野菜もまた、酒の友として相性が良い食材であると理解し、秋の夜なが、百薬の長を今夜も楽しんでいます。

皆様どうぞ、ごきげんよう。

県民公開講座感想

前山文子

食養、経験医学としての東洋医学の叡智を感じわかりやすいお話でした。

私たち東洋医学を実践する者にも納得のお話・ガッテンガッテンでした。

現代は生活習慣病と称される如く栄養過多、摂りすぎによって病気をつくり、ストレスや習慣も関わっての呼吸に関する病気も多い、息も取り(吸い)過ぎ。

深呼吸というか、ゆったりする時間が減っている。心身ともに自分をコントロールすると言うのが難しい社会で健康を維持していくというのは、どういうことが改めて考える時間でした。

県民公開講座第１部は劉園英先生の「漢方の養生」と題して
家庭で簡単にできる食養生を講義されました。

第２部は当会の定池会長が講師を努めました。
「夏バテ解消、大切な鍼灸のツボはこれだ」と題して
夏バテに効果のあるツボを紹介しました。
聴講されている方々お一人お一人に会員による取穴指導を行いました。

5. 女性のためのお灸サロン

北国文化センターの『お灸サロン』

前山文子

定池会長から指名を受けて、6 月からこの講座が始まりました。

毎回思うのは自分でケアするということに積極的であること(そういう方が受講されている)。連続して受けられている方は、さらに東洋医学を楽しみ、もっと学びたいという熱意が伝わり、こちらも身がひきしまる思いです。

私も毎回、東洋医学の考えやお灸の魅力をつたえることに専心しています。

若い人が自分でケアすることを望んでいることも実感し、東京を中心に“お灸女子”ブームになっている流れが、地方の金沢にもやってきている感じです。

会員の本間光里先生をアシスタントとして講座に出向き、『私たちは鍼灸師会活動をしているよね～』といつも話しています。スキンタッチもそうですが、身近に自分でケアすることを伝えていくことこそ、多くの健康層の方々に訴え、彼女たちも望んでいることだと思います。特にお灸は昔から家庭でもされていました。

若い人を中心にその文化が復活し、“身体によい”ことを皆さんが証明してくれるわけで鍼灸師界にとっても喜びと思います。

これからもこの役目をライフワークとして継続していきたいと思っています。

6. リスクマネジメント講座

5,6,8 月実施のリスクマネジメント研修 赤十字救急法講習

上野晃一

本年度から 2 年にわたって開催されることになった「リスクマネジメント　専門領域研修」の、5,6,8 月に実施された赤十字救急法講習について報告します。

本研修は「基礎講習」と、その合格者に対する「救急員養成講習」に分かれています。

本来はそれぞれ別個に、平日や土・日曜日に受講しなければなりません。

今回は赤十字から指導員を派遣していただくことで、基礎講習 4 時間以上・救急法救急員講座 14 時間以上を、3 回に分けて受講できることになりました。

そのおかげで全日程を日曜日に受講できました。

5 月 25 日（日)、午前中は基礎講座。配布されたテキストや教材に沿って手当の基本、人工呼吸や心臓マッサージの方法、AED の使い方などを学習しました。

救助される側だけでなく、救助する側にも細心の安全確保が求められることの重要性を改めて再確認しました。

講習の最後にペーパーテスト。80 点以上で合格です。さすがというか当然というか、受講者全員が見事合格し、その場で認定証をいただきました。

しっかり講習を聞いてさえいれば、そう難しい内容ではありません。

午後からは、救急員養成講習。

こちらは日常生活における事故防止や止血の仕方、包帯の使い方、骨折などの場合の固定、搬送、災害時の心得などについての知識と技術の習得を目的とした講習でした。

本日は基礎講習の内容の再確認や止血の手順、止血点について学びました。

6 月 22 日（日）、この日は主に各種の外傷に対する鑑別や応急手当について学びました。

午後からは三角巾を用いた止血用ガーゼの固定法や、捻挫・骨折に対する固定法を学びました。

三角巾がいかに合理的で優れた包帯法であり、極めて多彩な使い方があることをイヤというほど思い知りました。

7 月は七尾でボランティアがあったため、8 月 3 日（日）に講習。

最終日、主に副子を用いた捻挫・骨折に対する固定法や、担架や毛布、徒手による傷病者の搬送や、災害時の救護活動について学びました。

午後からは実際に災害が起こったことを想定したロールプレイング（役割演技による疑似体験学習）も行いました。

こればかりは、当然といえば当然ですが、場数を踏まないとうまくいきません。ぎこちないながらも、皆で協力して何とかクリアできました。

講習の最後にテスト。実技とペーパーテストの豪華（？）2 本立て。

どちらも合格点は80 点以上。7 月 27 日（日）のボランティア終了後およびテスト前夜・当日早朝に勉強会を開いた甲斐があったのか、全日程を受講した会員 11 名、全員無事に合格し、後日認定証が送られてきました。

ある会員が「我々は必死に頑張りすぎたのではないだろうか?」と首をかしげ、皆で笑いあったのが今でも印象深く思い出されます。

最初にも書きましたが、カリキュラムが日曜日だけだったので仕事にさしつかえなく受講できたのがありがたかったです。
治療室の中でだけでなく、スポーツの現場で活躍する先生方にとっても得るものの多い講習だと思いました。

鍼灸医療リスクマネジメント研修に参加して

松田　朗

去る９月２８日、鍼灸医療リスクマネジメント研修カリキュラムの一環として、日本鍼灸師会臨床指導者の三浦洋先生をお招きし、”鍼灸臨床安全管理：多様化する患者ニーズに応える鍼灸医療”、”鍼灸医療の医療面接：患者様との良好なコミュニケーション技法”の講義が石川県地場産業振興センターにて開催されました。

まず、三浦先生のお話の中で、最近では、美容のための鍼灸施術や、スポーツにおける鍼灸治療の在り方など、そのシーンの中での鍼灸が注目されており、また、鍼灸業界では、AcuPOPJ：アキュポップジェイ“国民のための鍼灸医療推進機構”というものが発足され、患者のニーズに合った鍼灸師をめざす取り組みが行われているという事でした。具体的には、鍼灸の新規免許取得者に対する鍼灸師卒後臨床研修の導入を挙げておられました。近頃は鍼灸学校でも、ある程度の施術を習得できる学校もあるようですが、実際に現場の鍼灸師の姿を見せて戴くことは、鍼灸師の免許を取得したばかりの先生には今後の糧になり、励みになる事だと思います。

次に、鍼灸の医療面接のお話の中では、患者と医療者との良好な関係の築き方について論ぜられました。その一つとして、コミュニケーションには、メッセージとメタメッセージ（別の意味としてとらわれてしまうメッセージ）があるという事を述べられました。それは、例えば言葉とは裏腹な態度であったり、声の調子によっても気付いてあげることができることなどです。今一度、患者との触れあい方を見直す良い機会になりました。

リスクマネジメント研修 感想

山下　竜司

今回のリスクマネジメント研修「鍼灸臨床安全管理・多様化する患者ニーズに応える鍼灸医療」は、今後の鍼灸に対してのあるべき姿を再認識させられるとても良い機会になりました。

「国民のための鍼灸医療になる」それが鍼灸師に求められるものであり、一人ひとりの患者を家族のように思い接してあげることで、患者がまた鍼灸に行きたいと思ってくれることです。

そして、スポーツ、美容、介護、認知症など鍼灸を多様化することで国民性を持たせることなど、地域の鍼灸医療、国民の鍼灸医療になるために大切なことを丁寧にお話ししていただけました。

また、患者に対しての医療面接、コミュニケーション、適切な診断など臨床に欠かすことのできないことを、実際の経験をもとにとても分かりやすく教えていただけました。

ありがとうございました。

講師の　三浦 洋　先生

6．ゲートキーパー事業研修会

ゲートキーパー事業研修会に参加して

松田　朗

１０月５日、石川県地場産業振興センターにてゲートキーパー（命の門番）事業研修会が行われました。講師は、精神科医で、石川県こころの健康センター所長の角田雅彦先生でした。

近年、日本に於いて、自殺者は毎年３万人を超し、世界的順位として８位（2012 年度）と非常に多いのが現実のようです。

ゲートキーパーとしてのポイントを４つ挙げられており、(1) 気づく：周りの人の心の不調に気づく (2) 傾聴する：親身になって話を聴く (3) つなぐ：必要があれば専門機関につなぐ (4) 見守り：温かく寄り添いながら、じっくりと見守る　ことが必要であるとの事でした。

鍼灸院へは、身体的な痛みを訴える患者が圧倒的に多いですが、うつ状態の患者も来院されることがあります。鍼灸には、リラックス効果も期待できるうえ、患者との距離も近いため、一人一人の話を親身になって聴いてあげることができると思います。一人でも多くの命の助けになれば良いと願います。

7. 青年部からちょっとイイはなし

微生物で発電

微生物の力を借りて、電気を作り出す研究が進んでいます。

大学や大手化学工業などが、「微生物燃料電池」の開発に取り組み、新しい再生可能エネルギーとしての実用化を目指しています。これは、微生物が有機物を分解する際に発生する微弱な電気を集め、電力を得る発電システムです。

工場や家庭から出る下水などに含まれる有機物を燃料として使えるため、実現すれば、発電と水の浄化の一石二鳥が期待できます。

１９７０年代から研究は始まっていましたが、現在は、分野の違う研究者と企業が協力して開発に乗り出しています。日本だけでなく、中国やアメリカの大学、イスラエルの企業なども、実用化に向けて、研究を進めています。

新しい再生可能エネルギーの開発、実用化は、人類共通の大きな課題です。

実現するまでには、異なる研究の連携や、国や一企業の利害を越えた協力が不可欠でしょう。

大目標には、利他の精神で、総力を結集して臨みたいものです。

今日の心がけ◆目標に向けて力を出し合いましょう

一般社団法人　倫理研究所　職場の教養
2014 年 10 月号より引用

8. 図書紹介

老化は治せる

著者　後藤眞
集英社新書

上野　晃一

「老化は病気です」の言には冒頭から驚かされました。

しかし老化の原因の一端と炎症を結びつけ、「炎症」を軸に「老化学」を論じてゆく論理展開の妙は非常に素晴らしかったです。

老化＝炎症を抑える妙薬として、いまさらアスピリン（！）を持ち出す大胆さにも驚かされました。

そしてアスピリンをはじめとする抗炎症薬の思わぬ効能や可能性、その副作用についての記述も興味深いものでした。

「老化の予防」についてさまざまな視点から記述される予防手段や問題点については、東洋医学を学ぶ身には少々異論もありましたが、やはり参考になりました。

我々鍼灸師にとってもなじみの深い「炎症」と「老化」に実は深い関係があったのかもしれない、そう考えながらこの本を読み進むのは非常に楽しい体験でした。

秋の夜長、学術研鑽に励まれる会員の皆様の気分転換に、本書をお薦めいたします。

あとがき

新聞の記事の一文を書き出した紙を治療所のデスクの前の壁に貼っています。

その一文。「職務に就くものは、潔白と正義と勉励により隆昌となる」これは、日頃の自分への戒めと支えになっています。

自分は鍼灸師として責任をもって治療にあたれているか？自問しています。

鍼灸は、副作用のない医療と言われていますが、診断を間違えば不調を発することもありますし、施術を間違えば、医療事故になりかねません。この様な事のないよう、鍼灸医療を安心して気持ち良く受けて頂くためには、学術研鑽は必須だと思います。

当会は、今年度よりリスクマネジメント専門領域研修会を毎月１回開催しています。研修会は２年間で、必要な単位を取得します。

研修会は、会員の先生方と学術事情の共有と連携を高めることができる機会になると思います。鍼灸をもっと安心で身近な医療として広く社会に受け入れて頂くために、この機会の積み重ねはとても重要です。「鍼灸医療が隆昌となる」を目標に頑張りましょう！！

会報作成に当たり原稿依頼に快く応じて下さいました会員の先生方に心より感謝申し上げます。

今後とも、広報活動に温かいご理解とご協力のほど、宜しくお願い申し上げます。　(A.T)

発行　（公社）石川県鍼灸師会

会長　定池　寿

〒920-　石川県金沢市戸水１丁目４５８フロイデ１０５号

ＴＥＬ（０７６１）２４－０３６９

担当　広報普及部

編集部長　冨田あゆみ

編集委員　定池　寿　・　金谷由久

中村智彦　・　上野晃一

大内康弘